T B M 掘削における削孔検層とマシンデータに基づく崩落性地山対策の検証 東北中央自動車道 栗子トンネル東避難坑

- 東日本高速道路㈱ 東北支社 福島管理事務所 正会員 宮沢 一雄
 - 鉄建建設㈱ 土木本部 土木部 城本 政雄
 - 鉄建建設㈱ エンジニアリング本部 土木技術部 フェロー 笹尾 春夫

1. はじめに

東北中央自動車道 栗子トンネルは、福島県と山形県の県境に計画されている延長約9kmの長大トンネ ルであり、山岳トンネルとしては、国内3位、東北最長のトンネルである。本坑の施工に先立ち、地質調 査と水抜きを兼ねて避難坑を先行施工した。工法は、福島県側約5.5kmは、地質が花崗岩、石英安山岩、 流紋岩等の比較的硬質な地山であったことからTBM(4.5m)を採用し施工を行ったが、調査・設計時 点では予知できなかった突発的な大量湧水(最大500t/hr)と崩落性地山(全掘削長の約5割)が出現し、 掘削当初は幾度となく掘進停止を余儀なくされた。本報告はTBM施工において削孔検層やTBMマシン データを活用した崩落地山対策の検証について報告するものである。



図-1 栗子トンネル概略地質縦断

2. 削孔検層とTBMマシンデータの活用

TBM本体に搭載した削岩機によりほぼ全線にわたり削孔検層による前方探査を実施した。この削孔検層 による穿孔エネルギーの大小から掘削地山を定量的に予測評価し、崩落対策である注入式長尺鋼管フォアパ イリング(AGF)を施工する判断基準とした。さらに掘削と同時に得られるTBMマシンデータから掘削エネル ギー(単位堆積の地山を掘削するのに要するエネルギー:Et={(F*1000)+(2* *N*T*1000*100)/(V*0.1)}/A) (F:スラスト推力、N:カッタ回転数、T:カッタトルク、V:掘進速度、A:断面積)、ルーフサポート圧力、ベル コンスケールとスキャンシステムを併用した排土量により崩落対策の再検討や支保選定基準として活用した。 3.崩落性地山対策の検証

削孔検層から得られる穿孔エネルギーとTBMマシンデータ、地山状況等を実際に削孔検層により予め崩 落地山対策としてAGFを施工したSTA154(TD4,200)付近のシートを図 2 に示す。穿孔エネルギーは 150J/cm3 程度と低い状態であったがSTA154+16 以降に急激に上昇、付近では 240 /min の湧水があり、火 山礫凝灰岩からデイサイトへの岩質変化に伴い層境の弱層部で大きな崩落が予想されたためAGFの採用を 決定し、4 シフト施工した。掘削エネルギーも同様な傾向を示し良い位置でAGFの施工ができたことがマ シンデータからも伺える。延長 5,500mの掘削において崩落地山対策としてAGFを施工した全 14 箇所につ いて同様に削孔検層、マシンデータ、地山状況等を取りまとめて検証を行った結果を図 3 に示す。

キーワード:山岳トンネル、TBM、削孔検層、補助工法 連絡先:福島市飯坂町平野字前原11 024-542-0111 E-mail:k.miyazawa.aa@e-nexco.co.jp



図-2 削孔検層・TBM 機械データ・地山状況シート

-						<u>, , ,</u>						
区間距離		113+75	117+10	117+60	117+90~	118+10	118+20	118+45	118+70~	147+35	148+50	153+30
		~ 90	~ 40	~ 80	118+00	~ 20	~ 40	~ 50	119+25	TD3,50	~ 60	~ 45
		TD 198	TD 533	TD 583	TD 613	TD 633	TD 643	TD 668	TD 693	8	TD3,67	TD4,15
												火山磯憲友
地質		花崗閃錄岩	花崗閃錄岩	花肖閃錄岩	花肖丙錄岩	花肖閃錄岩	花肖閃錄岩	花肖閃錄岩	花肖閃錄岩	混火用柴石 1.温岩	混火泪课 名 1. 混当	岩+麦冇安
										1 10 13	T #0 13	山岩
支 保 パターン										D - T (A)		
		D - T (A)	D - T (A) D	D - T(A)	D - T(A)	D - T(A)	D - T(A)	D - T (A)	D - T(A)	D - T	D - T (A)	D - T (A)
										(G)		
補助工法		465+	AGE+	A G F +	AGF+	AGF+	A G F +	A G F +	A G F +	A G F +	AGE+	AGE+
		i z z n	É ¥ n	矢送り+	矢送り+	矢送り+	矢送り+	矢送り+	矢送り+	+ GFRP	É ¥ n	É ¥ n
		~ 6 '	~ 6 '	水液きBor	水 抜 き Bor	水 抜き Bor	水 抜き Bor	水疲きBor	水抜きBor	+矢送り	~ 6 '	~ 6 '
前方探查	察れ エネルギー	Min 90	<u>Min</u> 100	<u>Min_100</u>	Min_50	M_in_100	M_in_100	M_in_100	Min_50	M_in_100	<u>Min_100</u>	Min_100
	J/cm3	振幅	振幅	振幅	振暢	振暢	振幅	振幅	振幅	振幅	振幅	振幅
		90-600	100-700	100-500	50-500	100-500	100-500	100-200	50-500	100-300	100-300	100-250
TBM マシン データ	観削エネルギー							4.0			4.0	4.0
	N/mm2	Min 9	Min 9	Min /	Min 10	Min 15	Min 10	Min 10	Min 10	Min 10	Min 10	Min 12
	ルーフサポート圧力											
	Mpa	Max 1Z	Max Ö	Max ZU	Max 12	Max 14	Max 14	Max 10	Max ZU	Max ZU	Max Z Ə	Max Z O
	排土量	. 70		50	. 50						50	
	地山15.9m3/m	Max 70	Max OU	Max DU	Max 50	Max OU	Max 40	Max OU	Max OU	Max OU	Max 50	Max 50
	当花房	-		-								
坑 璧 犹況	周37音/252。 1:大規模 (1m以上)											
	2:中規模 (30cm以上)	2 3	2 3	1 3	1 3	2 4	3 4	1 3	1 4	2 4	2 3	1 3
	4:鼠藩吉(10cm以下)	12 3	2 3	1. 2			5 7				2 3	
		開口薄	開口薄	開口薄	開口薄	開口薄	開口薄	開口薄	開口薄	開口薄	開口薄	刺日不
	亀裂状況	い粘土	い粘土	い粘土	い粘土	い粘土	い粘土	い粘土	い粘土	い粘土	い粘土	
		挟む	挟む	挟む	捜む	挟む	挟む	挟む	挟む	挟む	挟む	473 R.R.
	岩石油度		<u> </u>									
	N/mm2	Min 6.0	Min 5.0	Min 6.3	M in 13.3	M in 32.6	Min 8.8	Min 6.1	Min 6.5	Min 8.6	Min 5.2	Min 5.5
	通水量			1 400			1 400					
	?/m in	Max 20	Max 20	Max400	Max200	Max600	Max100	Max 90	Max1,300	0	0	Max 3

TBM 掘削における崩落性地山対策の検証

図-3 TBM 掘削における崩落性地山対策の検証

3.まとめ

(1)崩落対策を実施する穿孔エネルギー基準値は、当初 100J/cm3 以下としていたが、その後の掘削経過に より火成岩系では 200J/cm3 基準レベルから降下傾向が連続する場合とした。堆積岩系では貫入岩層境で の崩落が顕著であったので穿孔エネルギーを相対的に評価した。

- (2)削孔検層により予知されなかった大量湧水(最大 1,300 /min)を事前確認できた。50 /min 以上の湧水箇 所では湧水に伴う崩落が拡大した。
- (3)穿孔エネルギー・TBM掘削エネルギー・坑壁岩強度のデータは多くの相関性があり、さらに検証と解 析を行うと地山状況予測評価の有効な手段となる。

突発大量湧水や崩落性地山に遭遇したが、一度も T B M を拘束することなく貫通することができた。削孔検 層データやマシンデータなどを活用すれば、地山のより詳細な情報が得られ、不良地山箇所や湧水の予測が 可能で予め対策が可能であり不良地山における T B M の適用範囲を大きく広げることができたと考えられる。